

論 文

臨床実習におけるインシデント・アクシデントの実態

天 池 千嘉子

明倫短期大学 歯科衛生士学科

The Reality of Incidents and Accidents in Clinical Training

Chikako Amaike

Department of Dental Hygiene and Welfare, Meirin College

歯科衛生業務は多くの場面でリスクが高いことから、歯科衛生教育についても医療安全教育が組み込まれ、基礎教育や臨床実習において取り組みの必要性が示されている。そこで、学生の臨床実習でのインシデント・アクシデントの概要と発生の傾向を調査し、把握することにより、今後の教育、指導のあり方を検討することを目的とした。対象は本学歯科衛生士学科平成27年度生37名で、平成28年10月から平成29年9月までの臨床実習期間中の実習ローテーション終了毎に無記名式質問紙にて調査した。質問の内容は学生が認識したインシデント・アクシデント、事例の内容、発生時の報告の有無についてである。

調査の結果、1年間の臨床実習中に学生が意識したインシデントは68件、アクシデントは19件であった。実習時期においては、臨床実習直後のローテーション時に多く発生し、実習が進むにつれ減少傾向にあったが、冬季・夏季休暇明けの実習で上昇した。発生場面別では「歯科診療補助」分野の対人関係の場面で最も多く発生した。インシデント・アクシデントの発生は実習時期や実習場面に関係していることが示された。

本研究より、1年間の臨床実習を行なうにあたり、歯科衛生教育において今後も基礎学習で徹底した医療安全教育も必要であるが、実習期間中もオリエンテーションを実施し、事故防止に対する意識づけを常に行なう必要であると考ええる。

キーワード：臨床実習、インシデント、アクシデント

Keywords: Clinical Training, Incidents, Accidents

I. 緒 言

良質で安全な歯科医療を提供するために、様々な取り組みが検討されている¹⁾。歯科医療現場において鋭利な器具や回転切削具の使用や、直接血液や唾液を介する処置が多く行なわれるなか、質の高い医療を提供し患者の安全を確保するためにも、われわれ歯科衛生士も医療安全対策に積極的に取り組む必要がある。平成24年に全国歯科衛生士教育協議会が作成した、歯科衛生学教育コア・カリキュラムに医療安全管理が組み込まれ、基礎教育や臨床実習にて到達目標が掲げられ、様々な取り組みの必要性が示されている^{2,3)}。

本学においても、基礎教育では「歯科診療補助論」

で医療安全管理体制における歯科衛生士の役割の理解と歯科診療中の事故と対策の理解を学習の到達目標とし、臨床実習では1年にわたる「臨地・臨床実習Ⅰ・Ⅱ」において、患者の安全に配慮することができる、医療現場における危険についての理解、ヒヤリ・ハットの報告ができることを到達目標に臨床実習に取り組んでいる。

しかし、学生は事故防止に対する自覚が低く、臨床実習において医療事故を起こす可能性がある。

そこで、学生の臨床実習中に発生したインシデント・アクシデントの概要と発生の傾向を調査し、今後の課題について検討することを目的とした。

II. 対象および方法

対象は、本研究に同意を得られた本学歯科衛生士学科平成27年度生37名である。方法は平成28年10月から平成29年9月までの1年間の臨床実習期間中、各実習ローテーション（約6週間）終了時に、無記名式多項目選択式質問紙法にて調査した。ローテーションは全7ローテーションあり、臨床実習は2年次の10月から3月までの3ローテーション、3年次4月から9月までの4ローテーションで1, 4, 8月には長期休暇があった。質問紙の内容は学生が臨床実習中に認識した、インシデント・アクシデントの有無、発生場面（「受付・応対」「患者誘導」「歯科診療補助」「歯科予防処置」「準備・片付け」「その他」）、事例の内容、発生時の報告の有無についてなどである。

なお、インシデントとは事故に至らない「ヒヤリ」としたり「ハッ」とした経験とし、アクシデントは医療行為の中で発生するトラブルで、損害が既に発生しているものと定義した。

III. 結果

1. インシデント・アクシデントの認識

1年間の臨床実習期間中に学生が認識したインシデントは68件、アクシデントは19件であった。

2. 臨床実習時期別発生推移

臨床実習の時期別にみた発生推移を図1に示す。インシデントは臨床実習開始直後の1ローテーション目に60%と多くの者が経験し、実習が進むにつれ減少傾向にあったが、実習終了直前の6ローテーション目に再び上昇した。また、アクシデントの発生は、冬季休暇明けの3ローテーション目に33.3%と最も高くなり、インシデントと同様に実習終了直前の6, 7ローテーション目に、再び上昇した。3学年進級直後の4, 5ローテーション目にはインシデント・アクシデントともに発生が低くなった。

3. 発生場面と実習時期

「受付・応対」時の状況は図2に示すとおり、1, 6ローテーション目で6件と最も多く、次いで3ローテーション目の2件となった。事例の内容は保険証の返却忘れや間違いが11件だった。

「患者誘導」においては、図3に示すとおり、1ローテーション目に3件発生し、次いで6ローテーション目となった。

「歯科診療補助」は、図4に示すとおり、1ローテーション目に26件、2ローテーション目に16件と臨床

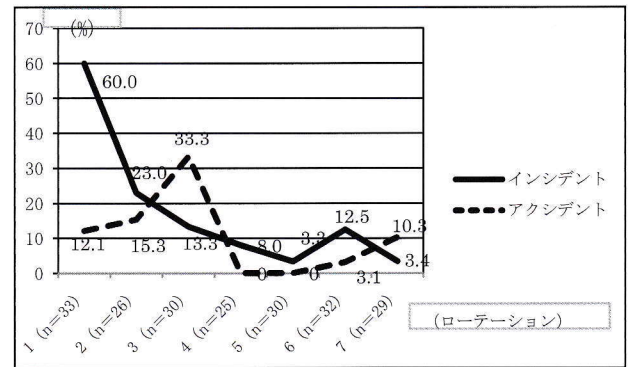


図1 ローテーション別発生推移

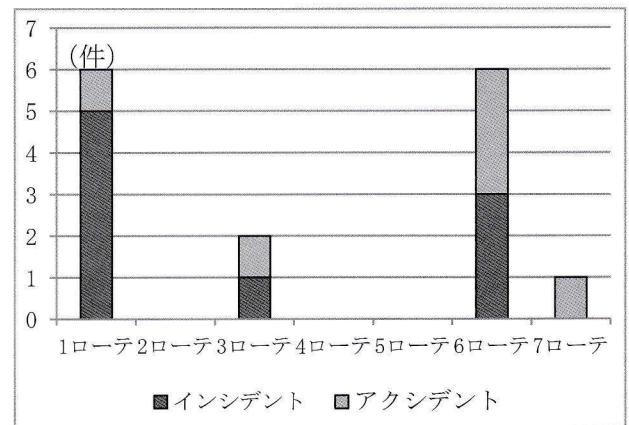


図2 受付・応対

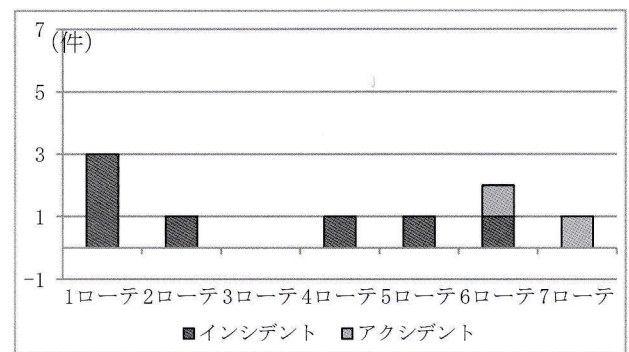


図3 患者誘導

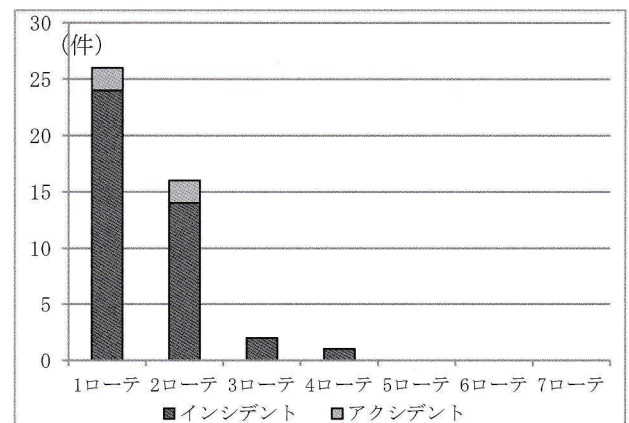


図4 歯科診療補助

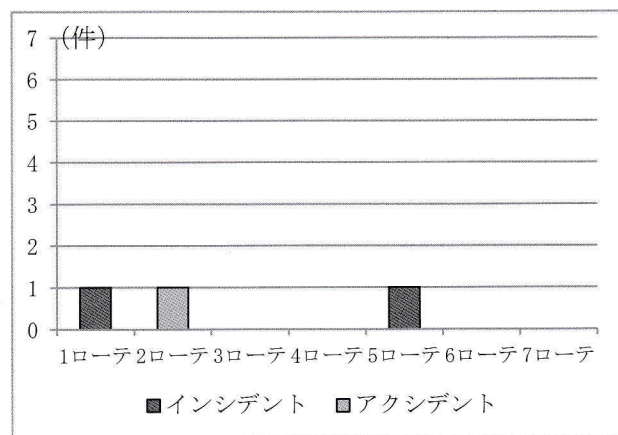


図5 歯科予防処置

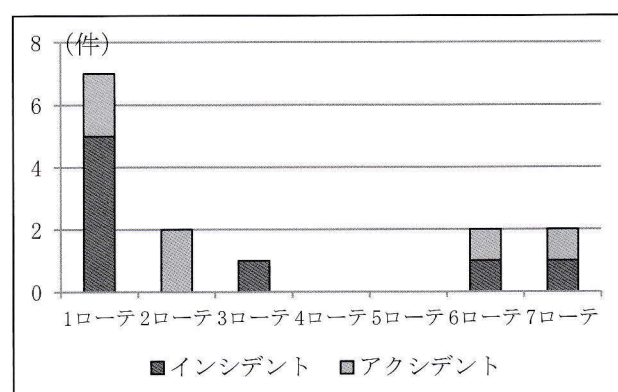


図6 準備・片付け

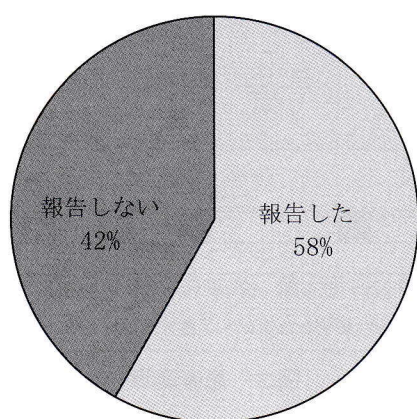


図7 報告の有無

実習開始後の2年次に集中し、発生場面別で最も多い発生件数で45件となった。事例の内容は指示の聞き間違いや、器具の落下だった。

「歯科予防処置」は、図5に示すとおり、全体的に発生が少なく、1, 2, 5ローテーション目に1件ずつ発生した。

「準備・片付け」では、図6に示すとおり、1ローテーション目に7件で、実習終了間際の6, 7ローテーション目にそれぞれ、2件発生した。

4. インシデント・アクシデントの報告

インシデント・アクシデントの事例発生後、実習担当者への報告の有無は図7に示すとおり、報告した者が58%、報告しなかった者が42%となった。報告しなかった理由として「自覚がなかった」、「報告する義務がないと思った」が挙げられた。

IV. 考 察

1. インシデント・アクシデントの認識

インシデントが68件、アクシデントが19件だったがそれを経験しても自覚がないなど表面化していない場合もあると考えられる。

2. 臨床実習時期別発生推移

インシデント・アクシデントが臨床実習開始後のローテーション時に多く発生したのは、学生にとって不安や緊張が強く、知識・技術の未熟さがあったと考える。また、3ローテーション目にアクシデントが上昇したのは、臨床実習にもある程度、慣れてきた時期でもあるが、臨床実習開始後初めての長期休暇(冬季休暇)明けで、実習に向かう姿勢が十分でなく、実習に対する慢心がみられたからと思われる。4, 5ローテーション目に減少したのは、3年生に進級し、最高学年になった自覚と再度、実習の心構えについてのオリエンテーションを行なった結果、改めて緊張感が高まったからと考えられる。

3. 発生場面と実習時期

「歯科診療補助」分野において発生件数が高くなったのは、実習頻度が高いことに加え、知識や技術の不足、対象者が術者などの医療スタッフや患者との対人関係の対応力不足もあったと考えられる。「受付・応対」、「患者誘導」分野においてもコミュニケーション不足や確認不足があったと思われる。

「歯科予防処置」分野については、自ら術者となり回転器械や薬剤を使用する頻度が高いからと考えられる。組織の損傷や研磨器具の落下など細心の注意が必要であると気付かせることが重要である。

4. インシデント・アクシデントの報告

インシデント・アクシデント発生時、報告しなかった者が42%あったのは、指導が徹底していないことや事例に対する認識の甘さを感じられる。報告は医療従事者の重要な義務であることや、再発防止の有効手段であることを自覚させる必要がある。

V. 結 論

歯科衛生士学科平成27年度生の1年間にわたる臨

床実習に発生したインシデント・アクシデントについて調査した結果、以下の結論を得た。

インシデントは臨床実習開始直後の1ローテーション目に、アクシデントは冬季休暇明けの臨床実習3ローテーション目に最も多く発生し、3学年進級直後の4、5ローテーション目にインシデント・アクシデントともに発生が低くなった。

発生場面別では「歯科診療補助」分野に最も多く発生し、次いで「受付・応対」分野であった。

インシデント・アクシデント発生時、実習担当者へ報告した者が58%、報告しなかった者が42%だった。報告しなかった理由として「自覚がなかった」、「報告する義務がないと思った」が挙げられた。

基礎教育を臨床実習に活かすためには、学生の医

療安全に対する意識を高めていくことが重要である。また1年間にわたる、長期の臨床実習において、頻回にオリエンテーションを実施し、事故防止に対する意識づけを常に、行なう必要がある。

文 献

- 1) 松田裕子編集：インシデントの事例と対策－歯科衛生士のヒヤリ・ハット－口腔保健協会，東京，2015
- 2) 中島丘：医療安全を獲得するための教育項目の提言，日衛教育誌，7(1)：32-38, 2016
- 3) 田村清美：歯科衛生養成課程における医療安全教育の取り組み，日衛教育誌，7(1)：51-57, 2016